（第２号様式）

令和６年４月４日

神奈川県教育委員会教育長　殿

県立霧が丘高等学校長

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 13 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（１月 22 日実施）	成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①学校のミッション、生徒の実態、教育ニーズに即した新たな魅力と特色づくりを推進する。 ②インクルーシブ教育実践推進校としての取組みを推進する。 ③これからの時代に必要な資質・能力を育成するため、主体的な学びの向上、探究的な学びの推進、グローバル化・ＩＴ化への対応を見据えた取組みを行っていく。	①新教育課程施行２年目を迎え、各教科が指導要領に則り新課程にスムーズに対応する。 ②中高連携事業や外部機関との連携等を通じ、互いを認め合い、支えあう力の育成を図る。 ③ICT を活用した授業の充実化を図る。	①新教育課程における本校の教育課程が、生徒の目標やニーズに適っているか、選択に問題はないか、検証する。 ②連携生に対するきめ細やかな学習支援、進路支援を充実させる。 ②共生社会の実現に向けた全生徒対象の学習会、講演会を実施する。 ③ICT を活用した授業研究や研修会を実施し、誰もが活用できるように推進する。また、全生徒 iPad 所持、全教室モニタ配置のメリットを活かした授業を研究する。	①選択科目指導や時間割の作成において問題がなかったか。 ②科目修得や希望進路の実現ができたか。 ②講演会受講時の生徒の反応、アンケート等により意識が向上したか。 ③授業研究や研修会を実施できたか。また、課題を共有し、解決する取組みができたか。	①新教育課程施行による本校の新教育課程への変更にスムーズに対応できた。 ②連携生に対するきめ細かな学習支援、進路支援ができた。 ②共生社会の実現に向けた生徒対象の講演会を実施し、互いを認め合い、支えあう力の育成を図ることができた。 ③全県より１年早く一人一台端末の取り組みを始めたことを受け、全学年の生徒が端末を用いる環境を整え、ロイロノート等のツールを学びに用いることができた。また、各教室に大型モニタを導入したことも ICT を取り入れた授業の推進を加速させた。	①現２年生の卒業時に改めて、新教育課程の編成・指導に問題がなかったか、検証する。 ②連携生の進路実績及びアンケート等により、現在の支援の在り方を検証する。 ③なるべく多くの教員が ICT を活用できるよう環境整備を行い、授業時のツールや選択肢が増えるようにしていく。	①学力の定着、向上に向けた取組みを進めることに加えて、社会に出てからのことを考えて生徒のコミュニケーション能力をさらに伸ばしていけるような取組みを期待したい。 ②個人的に様々な課題を抱えた生徒に対する対応は大変だと思うが、学習支援や進路支援を継続し、インクルーシブ教育実践推進校としての取組みをさらに推進してほしい。 ③ICT を活用した学習活動の充実に向けて、一人ひとりの教員が ICT 活用指導力を向上させられるとよい。	①新教育課程の変更にスムーズに対応できたが、本校の学校目標や生徒のニーズに適っているか、今後も検証していく必要がある。 ②インクルーシブ教育推進実践校としての先駆的役割は果たせた。今後は一人ひとりが抱える問題へのきめ細やかな対応、共生社会実現に向けた意識の向上を継続して取り組む必要がある。 ③環境を一通り整え終えたところで、教員の ICT 活用意欲を高めていく必要がある。	①生徒や保護者に対して、教育課程や選択科目の説明を丁寧に行う。新教育課程移行後の初の卒業生にアンケートを実施し、生徒のニーズとの照合を図る。 ②引き続き連携生へのきめ細かな対応と共生社会の実現に向けた講演会を実施する。 ③科目内で共通の ICT 利活用を行う等、組織的な取り組みを行えるとよい。一方で、ICT ありきではなく板書や発問のスキルも同時に向上させたい。
2	生徒指 導・支援	①自らの夢や目標に向かってチャレンジしながら未来を切り拓いていく力を育成するとともに誰もが霧高生であることにプライドが持てる活気ある学校づくりを行っていく。 ②多様性を受け入れ、他者を認め合い、支え合いながら主体的に課題を解決する力を育成するとともに、「インクルーシブな学校づくり」を行っていく。 ③規律と秩序のある生徒指導ときめ細かい支援体制を確立する。	①生徒の主体的な活動を活性化させるために、生徒会、委員長会、部長会が軸となって、生徒同士を繋げながら、お互いの立場や役割への理解を深め、積極的に協力して問題解決を行う。 ①生徒自ら常識的な行動を選び、お互いに気持ちの良い人間関係を築く。 ②生徒対象の研修会を通して、他者を認め尊重していく姿勢を醸成していく。 ③アフターコロナの生活様式に適応した規範意識を醸成していく。学年間で共通認識を持って生徒指導をしていく。また、多様な生徒の実態に応じた指導と指導体制を確立する。	①より良い学校生活のために、生徒自らそれぞれの立場や役割を活かした提案ができる機会、またその考えを具体化できる機会を作り支援する。 ②インクルーシブ教育や人権教育に関する生徒向け研修会を年４回以上開催し、多様性や他者を認め合う中で、様々な課題解決方法を考え実践する機会をつくる。 ③自転車通学マナーや生活習慣改善ポスターなどを作成し、学校生活の中で秩序を守ることの大切さに対する啓発をする。また、個別の指導では、教育相談やケース会議等を有効活用する。	①生徒のアイデアを活かした活動ができたか。生徒主体の活動が増えたか。リーダー同士の協力体制が築かれたか。 生徒が実感を味わえる機会を作れたか。 ②研修会を通じ、多様性や他者理解、課題解決方法を考える機会があったか。 ③日常の高校生活マナーを意識し改善することができたか。 ③SC や SSW を有効活用し、個別の相談や課題に対し組織的に対応できたか。	①全ての行事の内容がコロナ前の状態に戻り、耐震工事でスペースの限られた中で、生徒が会議やオンライン等で話し合い、連携を取りながらそれぞれのアイデアを活かした活動を進めていくことができた。部長会や委員長会の活動機会が増え、自分たちに求められていることを理解し行動する場面も増えてきた。 ②インクルーシブ教育や人権教育に関する研修会を実施する中で、多様性や他者を認め合う心が浸透してきた。 ③自転車マナーについては、登校時間ギリギリで登校している生徒が多く、近隣から情報を寄せられることがある。生活習慣については、諸事情を抱える生徒もおり、一部生徒に限り、指導に時間を要することがある。教育相談などの個別指導は、教育相談係や SC、SSW を中心に対応しているが、外部諸機関と連携を取らなくてはいけないケースが多数あり、その重さを感じることがある。	①問題を投げかければ対応できることも増えたが、自発的な行動を起こすまでにはまだ足りない。計画表やレジュメを作成したり、記録をつけるなどして、常に自分たちの活動を整理し、次に行うことや目的を明確にする取組みを積極的に行う。 ②今までのインクルーシブ教育や人権教育研修会を進め、より生徒に浸透できるようなテーマを考え深めたい。 ③日頃から交通安全の意識を浸透させるために、交通事故のシミュレーションができるような研修会や講習会を実施する。 また、遅刻指導や服装・頭髪指導を通し、校内秩序を守ることの大切さを理解させる。 教育相談係や SC、SSW の負担が大きいため、できるだけ組織的に対応できるよう体系化していく。	①部活動の加入率は約 70%とのことだが、コロナ禍で大変だった時期を過ぎて、活性化できているのは喜ばしい。部活動を通して、人の役に立つ喜びを実感できるような機会が持てるとよい。 ②友人を大切にする、困っている人に声をかけることができるといった行動ができるように、他者を思いやる心を育ててほしい。 ③地域の小学校でも経済的に困窮している家庭の児童が夏休み明けに痩せていたり、万引きの事例が増えたりするといった状況があると聞いている。教育相談では SC、SSW を活用しているとのことだが、外部機関とうまく連携して生徒の課題解消に向けて取り組んでほしい。	①生徒が自分で情報を集めたり、他者と連携して物事を進めたりといった活動が少しずつ増え、リーダーも少しずつ育っている。 ②授業や研修会、学校行事など様々な場面を通して他者理解を深め、協働する機会が多く見られた。一人ひとりに少しずつインクルーシブ教育の目標は浸透してきているが、今後は多角的なアプローチが必要である。 ③日頃の対話や指導の成果として、校内秩序を遵守している生徒が増えた。交通マナーについても少しずつ改善されている。今後も担任・支援担任、学年団と協力して指導を深めたい。 ③個別指導については、これまで通り教育相談係を中心に SC や SSW と協力しながら組織的にサポートしていきたい。	①運営委員会、委員長会、部長会を中心として、生徒が自ら考え、意見交換し、策を練って実施する活動を充実させる。 ②体育祭や文化祭などの学校行事や HR 活動を中心に協力しながら目標をクリアしていくことで沢山の人との関りを持つ中で協働し、多様性を理解させる機会を持たせる。 ③日常生活の様々な場面で生徒と話をし、信頼関係を築く。交通マナーの改善に向け、生徒の心に訴えるような指導や講義等を活用していきたい。 ③複雑な状況にある生徒に対しては、SC、SSW と協力し、どのような支援をどのタイミングで行えば効果的なのかを組織で考え実践していきたい。

	視点	４年間の目標 (令和２年度策定)	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 13 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（１月 22 日実施）	成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①職業的・社会的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成し、自らの力で生き方を選択し、自己の未来を切り拓いていく力を育てる。 ②生徒一人ひとりが自らの意思によって将来の進路を選択し、自己実現を果たしていくための能力の育成に向けた指導・支援を行うとともに、生徒のあらゆる進路ニーズに対応したキャリア支援教育（進路指導）体制を構築する。	①他者そして社会の在りようを通して自己を理解するために必要な技能や情報を、系統立てて身に付けることができるような方策を計画し実施する。 ②生徒一人ひとりの目標達成に対し、最適化されたプログラムを提供する。	①社会全体の課題を知り考察することで自己理解を深めていけるような場を、総合的な探究の時間での活動を中心に展開する。 ②生徒のより良い進路選択に向けた情報を発信し、自ら進んで進路実現に向けて取り組めるような機会を増やす。	①生徒が学年末の振り返りで行う自己評価で、自己理解や他者理解の深まりを実感できたか。 ②生徒や保護者等に対し、時宜を得た情報を発信できたか。また、自己分析を必要とする課題への取組みや資格・検定試験への取組みが増えたか。	①職業観を含めた将来の展望を育むガイダンスなどを通して自己理解を深めさせることができた。また、インクルーシブ教育に関する講演会を開催し、他者を理解する機会を与えることができた。 ②生徒や保護者等に対する情報発信は、その量や時期を含め、概ね達成できた。また、資格・検定試験の受検者数も昨年度よりも増加した。	①社会という場に位置付けて自己を理解し研鑽しようとするさらなる仕掛けを模索する。 ②生徒や保護者等を対象としたガイダンスの在り方を再考する。また、資格・検定試験への取り組みを継続する。	①他校での話だが、推薦書類の発送を学校側が失念していて結局一般受験をせざるを得なくなった事例があった。進路関係の手続きは慎重かつ確実に行ってほしい。 ②英検等の資格検定試験の受験率が増加したのはよかった。今後も継続的に受験を呼びかけるとともに、合格率の向上にも取り組んでほしい。	①総合的な探究の時間を軸に、職業観の育成と自己理解・他者理解の深化を図ることができた。また進路関係の事務作業についても事故なく遂行することができた。 ②生徒や保護者等に向けて適切に情報を発信することができた。また英検等の資格検定試験についても一定の成果をあげることができた。	①総合的な探究の時間の内容をブラッシュアップするだけでなく、多様な局面に対応するための力をつけさせるような取り組みも考える必要がある。 ②特に保護者等を対象とした説明会の時期と内容について、検討の余地がある。
4	地域等との協働	①保護者や地域社会に対し、本校の教育活動についての理解を深めてもらうための積極的な情報発信と学校ＰＲを行っていく。 ②地域との交流や協働、地域貢献等を通じ、地域に開かれ、地域と共にある学校づくりに取り組む。	①学校ホームページ、部活動画、学校説明会、チャレンジスクール等を通し、積極的に情報を発信していく。 ②生徒の地域貢献や地域交流の経験値を向上させる。近隣の学校との学び合いの機会を作り、霧高生として地域のために何ができるかを考え、実践する。	①校内外の学校説明会を通じて、霧コンシェルジェをはじめとした本校生徒の活動を発信する。 ①学校ホームページを適切に更新するとともに、広報動画、活動動画等内容の充実を図る。 ②生徒が地域のために何ができ、何をしたいと考えているか、また地域が霧高生とどのような関りを求めているかを把握し、現在ある機会を充実させながら、必要に応じて新たな機会を開拓する。	①説明会参加者へのアンケートで肯定的な回答が 80％以上となったか。 ①ホームページ更新が月１回以上できたか。 ②地域と連携した活動を実施することができたか。生徒の視野が広がり、学校生活の充実につながったか。	①コロナ禍において縮小せざるを得なくなった広報活動を実施できる形態に改善しながら行うことができた。また、HP デザインを一新し、行事の即日配信等保護者や地域社会に情報発信する方法を増やした。 ②従来のお祭り等への参加、防犯教室（1 校から緑区内小学校 3 校に拡大）、若葉台商店街で小中学生に勉強を教えるといった取組みが再開し、他にも Wakka や中学校の授業への協力等新たな地域活性化の提案もあり、積極的に要望を受入れ、取組むことができた。中には参加できないものもあったが、次に繋げる検討ができた。	①学校説明会においては４回とも満員、アンケート結果も概ね良好であった。生徒主体の説明会が好評であると思われる。受検生のニーズにさらに沿うようなコンテンツを模索していきたい。 ②霧高生は地域に頼りにされ、必要とされているが、部活動や生徒会等に所属していない生徒を動かすことにかなりの難しさがある。ポスター掲示や HR での周知では訴える力に弱く、個人的に声を掛けてもほぼ遠慮される現状であるため、生徒会を中心として何らかの改善策を講じる。	①霧が丘高校に関心を持っている保護者、地域住民は多い。生徒の声が外部にも伝わることが大切である。 ②地元の祭りに吹奏楽部が参加して演奏するなどの地域貢献活動はとてもよかった。かつて開催していたチューリップ祭りも再開できるとよい。 ②若葉台ショッピングタウン内の Wakka（多目的活動スペース）の試験勉強利用を促進できるとよい。 ②地区社協の広報映像制作を総合映像研究部が手伝うなど、交流や貢献が可能な項目一覧を提示してくれると助かる。	①学校説明会、学校ホームページともにコンテンツが整理され軌道に載ったといえる。それらに加えて生徒の活動、生徒の声を発信する仕組みを構築していく必要がある。 ②従来通り、地域との関わりを大切に、できる限りの貢献や活動を進めることができた。その際部活動や委員会、生徒会本部を動かすことが多いので、いつも特定の生徒たちだけでなく、ボランティア登録なども徐々に戻して、校内での活動に繋がりが薄い生徒も地域交流できるよう促す仕組みを考える。	①令和５年度末に導入したデジタルサイネージを活用して、校内的に活動の周知を行い、外部に発信できるコンテンツを蓄積する。また、部活動広報に一層注力する。 ②コロナ禍でも何とか繋いできた地域の方々との関係を今後さらに活性化させ、生徒が多くの方々との関わりの中で豊かに成長していけるよう、日頃からそれぞれの機会における目的を明確にして、準備を進めていきたい。
5	学校管理 学校運営	①保護者から信頼され、地域から愛される安心・安全な学校づくりを行う。 ②防災意識を高めるための防災教育を地域や保護者と連携しながら組織的に行っていく。 ③教職員が生き生きと教育活動に取り組むことができるための「働き方改革」をさらに推進していく。	①危険等が発生した際に教職員が円滑かつ的確に対応できる体制を整える。 ②生徒並びに職員の防災意識をさらに高め、組織的な防災体制と有事を意識した訓練を実施していく。 ③職員の働きやすい職場環境を整えるとともに、生徒・保護者に信頼される学校を維持するために事故・不祥事防止に努める。	①危機管理マニュアルを作成し、教職員の意識向上を図る。 ②校内の組織を機能させるため、役割分担を明確にした訓練を行う。 ②生徒対象の DIG 研修を行い、防災・安全意識を高めるとともに、有事の際の保護者と連絡手段・引き渡し方法の確認を行う。 ③職員間の声かけを実践する。また、定期的に事故・不祥事防止研修を行う。	①危機管理マニュアルを作成し、共有できたか。 ②職員研修、防災訓練を実践的な内容で実施できたか。 ③事故・不祥事防止研修を何回実施したか。また、不祥事ゼロを達成できたか。	①教職員の意識向上を図るため、危機管理マニュアルを作成した。 ②防災訓練については災害時の役割分担を明確にし、業務の確認をすることができた。実践的な訓練に結び付けるところまでは至らなかった。 ③１月までに事故・不祥事防止研修を８回実施した。不祥事ゼロを達成できている。	①非常時に職員全員が危機管理マニュアルに沿って動けるようにするため、マニュアルの内容を周知徹底する必要がある。 ②耐震補強工事につき、避難経路や避難場所の変更を余儀なくされている。それらの課題に柔軟に対応し、実際に災害が起こった時に適切な行動をとることができるように、訓練にも工夫や変化が必要となる。次年度以降、改善していきたい。	①生徒が安心して学校生活を送るためには、日頃から生徒と教員の間に信頼関係を築いておくことが必要である。 ②防災については初動も重要だが、その後も大切である。若葉台の地域には高齢者も多いので、学校と互いに助け合うような関係を作りたい。	①生徒と教師間の人間関係を作ることができた。なにごとにも誠実に思いやりの心を持って取り組むことで、生徒や保護者との信頼関係を構築し、連携を深めていきたい。 ②防災意識を高めることができたが、より一層、自他の生命を尊重し、災害発生時及び事後に二次災害を防ぐ態度や行動をとれるようにしていきたい。 ③計画通り事故・不祥事防止研修を実施し、不祥事ゼロを達成できた。	①自他ともに大切にし、思いやりの心を持った組織の育成を目指す。 ②災害時における危険を認識し、日常的な備えを行う。また、自他の生命を尊重し、災害発生や事後には進んで他の人々や地域の安全に役立つことができるようにする。 ③引き続き事故・不祥事防止に努める。